

	科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数	開講時期(●)												専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)															
						1年				2年				3年				4年				医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法士の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職関連能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力	
基礎分野	9026	社会学概論	働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、組織内キャリア発達に関する主な主題を取り上げ、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活に関する身近な問題について考えるための手がかりを示すことを目的とする。	①受講学生が、仕事や働くことを自身の問題として現実的に考えることができる ②受講学生が、仕事や働くことに関する現代社会の諸問題を考えることができる ③受講学生が、就職することは、社会の構成員としての義務であることを知る ④受講学生が、学卒後に働きながらどのような仕事経験をするかについて知る ⑤受講学生が、働くことによって、人がどのように成長できるかについて考えることができる ⑥受講学生が、仕事や働くことが、男女間でどのように違うかについて考えることができる	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9027	法学概論	物事を「事実」と「規範」、「目的」と「手段」というように分析していく「法的思考」を身につけ、何事にも自分なりの判断ができるようになることを目標とする。法学の一般的な知識を学習できるように、法理論、法解釈、裁判所制度、実体法(民法、刑法、商法、訴訟法等)について概説する。	①法学の基礎知識を身につける(ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること) ②法学の基本的思考法を理解する(他の学問との思考法の違いをも理解すること) ③法学のおおよその分野の「土地勘」を得る	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9028	市民社会と政治	現在、われわれが生活している社会すなわち現代社会は大衆社会であり、脱工業化社会=情報化社会であり、それはまた市民革命によって出現した市民社会の延長線上にある。複雑多岐にわたって変化している社会の実態をく政治という視点で理解し、国際的な視野に立つて日本の社会と政治について考察する。そして、一市民あるいは一人間として地域社会の政治、日本の政治さらに国際政治とどう関わっていくべきかを考える。	①よき市民、有権者としての自覚を持つ ②社会に対して関心を持つ ③故郷に愛着を持つ	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9029	社会思想史	近代から現代における社会の変化に対し、人間がいかんにかそれを認識し、それに対しどのように対応していったかについて、日本や北東アジアを中心に解説し、現代の社会や文化を考察し理解を深めることを目標とする。<近代化>= Modernization、国民国家nation-stateの形成という視点から欧米社会と日本を含めた東アジア社会の比較対照しながら解説をおこなう。	国際的な視野で日本および日本社会をとらえる視点を持つ	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9030	消費経済論	経済の実態構造の中で、生産と消費は二つの基本なモメントとして相互に制約し合う関係にある。しかしながら、生産を主体としたこれまでの経済学に対する批判とともに、また消費者という概念のもとで生み出された市民運動の発展のなかで、生産及び企業に消費という側面がどの様に抵抗力を持つかが今日問題となっている。この科目では、これらの点を中心に解説する。	貨幣や金融を重点に経済活動における消費者の主体的役割の変化を最終的に理解する	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9032	社会政策	社会政策は、社会の下部構造である経済的諸活動に対して、その上部構造である国家や政治がどの様に影響を与えているのかを研究する学問であると考えられている。なかでも、労務間の調整は、社会権の確立とともに、社会政策の歴史的な最重要課題とされている。本講義では、こうした歴史と理論を前提にして、社会保障や高齢化社会の問題など社会政策の具体的な点にまで踏み込んで説明をおこなう。	労働政策と社会保障を理論的な柱として社会政策の現段階を総合的に把握できる	2				●									◎	◎	◎	○	○	○										
	9034	社会福祉学	社会福祉の意味やその歴史、老人福祉、地域福祉、介護保険、医療保険等に関連する地域の福祉基盤整備、社会資源の活用について講義する。また、我が国において、高齢者などの要介護者が置かれている社会状況などを解説し、社会福祉の諸制度の現状と課題、今後の地域福祉の発展の可能性について概説する。また、社会福祉と関連する医療分野、社会福祉の制度と諸サービス、社会福祉の課題と動向、介護保険と保健・医療・福祉の統合、ケアマネジメント等について講義する。	①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度、その歩みについて理解したうえで活用できる ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ③社会福祉対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる	2				●										◎	◎	◎	○	○	○	◎								
9037	環境科学	地球環境の成り立ちや地球科学の基礎的な知識について説明し、地球環境問題について、水、大気、生物等に関して具体的な例を挙げて解説する。科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さを理解させ、人類を含む生物の生存について考えさせる。単なる個々の知識の習得にとどまらず、自然環境の保全や自然保護の問題などに対する「科学的なものの見方・考え方」を培う。	①生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について述べる事ができる ②地球環境問題の全体像と相互作用について列挙できる ③主な地球環境問題について、その原因と影響について述べる事ができる	2				●										○	◎	○	○	○											
専門教育の基盤となる科目群	9041	生物学	生物個体の基本単位である細胞および種の基本単位である個体においてこれらの現象がどのように行われ、相互に及ぼす関係をもつかについて学修する。さらに、生物集団における環境に対する反応・調節、防御機構および種族維持について学ぶ。生命現象における2つの側面「生命を支えている基本的な法則「共通性」と生命体の示す多様性」について学修する。	①人体の素材としての細胞の構造および細胞が生きていくための細胞小器官名と機能について説明することができる。 ②細胞幹細胞に関する遺伝子治療の基礎分野として核酸(DNAとRNA)および遺伝子情報としての転写、翻訳が説明できる。 ③さまざまな外部環境からの攻撃より身体をまもっている皮膚ならびに生体防御機構について学び、皮膚の構造と機能および非特異的防御機能、特異的防御機構(免疫)が説明できる。 ④免疫異常について説明できる。 ⑤体温とその調節機構が説明できる。	2				●										◎	◎	○	○	○	○									
	9140	医療学入門	健康の維持、増進や疾患の治療の全体像を概観して、疾病や障害、清潔・不潔、インフォームドコンセント、守秘義務、インシデント・アクシデントなどについて学ぶ。適時行う、ロープレイを通して症例とのファーストインタクト、傾聴、問診から、患者およびその家族の心理状態、生活環境の変化や問題点を理解する。併せて、保健、医療、福祉の各領域において活躍できる理学療法士としての基本的な構え、接遇、マナーなどを学修する。	①日本における医療や福祉、健康増進の現状について理解する ②保健、医療、福祉における理学療法士の役割について理解する ③医療人としての態度接遇について理解する ④理学療法士として基本となるマナーについて理解する ⑤利用者に対して基本的な接遇が実践できる	2				●										◎		○		◎	◎	○	◎							◎

科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数	開講時期(●)				専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)													
					1年	2年	3年	4年	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力		
					必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	◎	○	△	◎	○
9111	生理学実習	生命現象の中において正常な生体機能がどのような順序で発現し、維持されているかを統合的に理解するための実習を行う。実習を通じて生体機能の発現およびその調節機構の基礎を理解することで、生理学Ⅰおよび生理学Ⅱにおける学習事項の理解を深める。	①筋電図、心電図、血圧、肺機能の検査・測定法とそのデータの生理学的意義を説明できる ②感覚機能の評価法とそのデータの生理学的意義を説明できる ③運動負荷試験法とそのデータの生理学的意義を説明できる ④実習事項をレポートにまとめることができる	1				●									◎	○	◎			
	体表解剖学実習	体表面から非侵襲的に身体を観察・触察することにより、人体の構造についての概要(骨の形態、骨格筋の形態・走行、神経・血管の走行)を確認する手法は、理学療法を実施するために重要である。実習を通して、この手法の修得することで、人体の構造についての理解を深める。	①骨の形態を説明できる ②骨格筋の形態と走行を説明できる ③神経と血管の走行を説明できる ④骨、骨格筋、神経、血管を触知できる	1				●									◎	○	◎			
	スポーツ生理学	スポーツならびに運動負荷に伴う生体機能の応答と適応のメカニズムについて、生理学Ⅰ、生理学Ⅱおよび生理学実習の学習を通して得た知識を用いて理解する。そして、健康とスポーツの関係、スポーツ活動に伴う主なスポーツ外傷ならびに障害の発生機序、症状および兆候、予防法の概要について学修する。	①運動・スポーツによる生体応答の概要を説明できる ②運動・スポーツに対する生体機能適応の概要を説明できる ③健康の維持増進のための運動・スポーツとその意義を説明できる ④主なスポーツ障害や外傷とその予防法の概要を説明できる	2				●									◎	○	◎			
	臨床心理学	精神的な問題を抱える個人の状態を、心理学の知見をもとに科学的に理解し、適切な援助を行うために必要な知識を習得することを目標とする。精神分析学、行動主義、人間性心理学などの臨床心理学の主要なアプローチについて学んだあと、代表的な心理療法と心理アセスメントについて学ぶ。加えて、発達に関わる問題、障害受容などについても学修する。	①代表的な心理療法について、列挙し、概略を説明できる ②代表的な心理アセスメントについて、列挙し、概略を説明できる ③臨床心理学と関連の深い心理・社会的発達、学習の過程に関する代表的な理論について概略を説明できる	2					●								◎	○	◎			
	人間発達学	出生から乳幼児期、学童期を経て成人に至る心身の成長と発達のプロセスならびにこの時期の環境はのちの発達過程にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。また乳幼児期に心身の発達障害を来す主要な原因を取上げ、さらに心身障害児の理学療法を行う上でとくに必要となる基礎的事項を中心に学修する。	①各ライフステージにおける身体的変化、運動機能について説明できる ②感覚・知覚機能の発達について説明できる ③認知機能の発達について説明できる ④心理・社会的機能について説明できる ⑤小児の代表的な疾患を列挙できる	1					●									◎	○	◎		
9123	内科系障害学	リハビリテーションを行う上で必要な内科系疾患を中心に疾患の概要について学ぶ。呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、糖代謝・脂質代謝異常、内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎疾患、膠原病、感染性疾患など内科系疾患の成因、主要症状、治療の概要について学修する。また内科系疾患の診断に必須の血液生化学的検査、生理学的検査、医用画像についての概要と採集、薬学、救命救急および予防の基礎について学ぶ。	①チーム医療を実践するのに必要な内科的知識を広く身につける ②循環器疾患、糖尿病など頻度の高い疾患についてその病態や予後、注意すべき点を知る ③内科的問題を抱えた省令に遭遇したときに、その問題点に気づき解決する方法を身につける	2											○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	運動器系障害学Ⅰ	筋骨格系は身体運動に関して中心的役割を果たしており、様々な疾患や外傷により運動器系に障害が生じた場合は、整形外科的治療と連携したリハビリテーションが重要な治療手段となる。また、筋骨格系障害のリハビリテーションは、日常のリハビリテーション臨床において頻度の多い障害である。そこで、運動器の機能解剖、整形外科的診断法、整形外科的治療法の総論、運動器リハビリテーションの総論、医用画像、救命救急および予防の基礎などについて総論的に学修する。	①骨の発生、成長、骨折治癒機転、代謝について理解する ②整形外科的診断法、画像評価法を知る ③各種の整形外科的治療法を知り、その中でリハビリテーションの果たすべき役割を述べることができる	2											○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	運動器系障害学Ⅱ	運動器系障害学Ⅰの講義に続き、運動器系に障害を生じる主要な整形外科的疾患(脊椎・脊髄疾患、関節リウマチ、変形性関節症、四肢の外傷、他)や障害(スポーツ障害を含む)を取り上げ、その病態、検査・診断、整形外科的治療、薬学、薬学の基礎およびリハビリテーションについて各論的に学修する。	①関節リウマチをはじめとした炎症性疾患の病態とその治療法を説明できる ②変形性関節症の病態と治療法を説明することができる ③脊椎の構造とそこに起る疾患、外傷の病態について理解する ④骨折をはじめとする四肢外傷について正しい知識を持ち、リハビリテーションで気を付けるべき問題点をを列記できる	2											○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	神経系障害学Ⅰ	神経学的症候を理解する上で必須の解剖学的基础事項、薬学、薬学、医用画像の基礎を学び、ついで障害により神経症候が出現する機序、すなわち障害部位と神経症候の関係について学ぶ。また意識障害、失語症など高次脳機能障害、脳神経障害、運動麻痺、運動失調など神経疾患にとつて頻度の高い主要な症候の出現機序と症候の持つ意義について学ぶ。とくにリハビリテーションと関連の深い上下肢の運動麻痺の性状については重点的に取上げて学修する。	①神経系の解剖学的基础事項を学ぶ ②障害部位と神経症候の関係について学ぶ ③意識障害や高次脳機能障害などについて理解する ④脳神経障害、運動麻痺、失調など神経疾患にとつて頻度の高い主要な症候の出現機序と症候の持つ意義について理解する ⑤錐体外路障害等についても学ぶ	2											○	○	◎	◎	◎	◎	◎	
	神経系障害学Ⅱ	各種神経疾患の成因と主要症候について学ぶ。すなわち、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など脳血管疾患、髄膜炎、脳炎など感染性疾患、多発性硬化症など脱髄疾患、パーキンソン病など錐体外路系疾患、筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロン疾患、進行性筋ジストロフィーなどの筋疾患、脊髄小脳変性症、末梢神経疾患、腫瘍性疾患などの成因、病態生理、主要症候、予後、救命救急および予防の基礎ならびにリハビリテーションを実践する上で留意すべき点について疾患別に学修する。	各種疾患の成因、病態生理、主要症候、予後、ならびにリハビリテーションを実践する上で留意すべき点について疾患別に学修する ①脳血管障害、感染性疾患 ②脱髄疾患、錐体外路系疾患 ③運動ニューロン疾患、筋疾患、脊髄小脳変性症 ④末梢神経疾患、腫瘍性疾患	2											○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	老年学	加齢に伴い、運動機能の低下や生理的な変化、認知症や関節症などの慢性疾患を有する状態となる。また、転倒や尿失禁などの老年症候群と呼ばれる症状を呈しやすい。そこで、加齢に伴う身体機能の変化や医学的治療における問題点などを取り上げ、健康増進、介護予防やリハビリテーションを実践する上での留意点について学修する。	①加齢による形態変化と生理機能の変化を説明できる ②老年症候群の発生メカニズムと症状を説明できる ③老年期の疾病の特徴を理解し、説明できる ④老年期の健康増進法と介護予防法、転倒予防法を説明できる	1												○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

人体の構造と機能及び心身の発達

専門基礎分野

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数	開講時期(●)								専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
					1年		2年		3年		4年		倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
					必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	9133	リハビリテーション医学	障害を治療対象とした医学として、リハビリテーション医学は発展してきた。リハビリテーション医学の概要、リハビリテーション医学に基づく診察・評価、障害の病態生理や治療などについて学習し、リハビリテーション医学の基本的理解を目指す。またその基本的理解に基づき、主要な疾患や障害に対するリハビリテーション医学的知識を修得する。	①リハビリテーション医学の概要を理解する ②リハビリテーション医学に基づく診察・評価の基礎を学習する ③主要な障害の病態生理について理解する ④主要な疾患の治療について理解する ⑤主要な疾患に対するリハビリテーション医学的知識を学習する	2																◎	◎	◎	
	9135	病理学	病理学は病因を明らかにし、疾病の成り立ちを追究する重要な学問であり、また基礎医学と臨床医学を結ぶ学問でもある。前半の総論では細胞や組織の傷害、壊死とその修復、炎症、感染症、循環障害、腫瘍、免疫、老化について講義を行う。後半の各論では循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、神経系、造血器系、運動器系、皮膚・感覚器系などのそれぞれの分野における疾病について学習する。	①基礎医学としての病理学、臨床医学としての病理学の役割を説明できる ②前半の総論で講義する各疾患概念(腫瘍、炎症・感染症、免疫異常、循環障害、代謝障害、染色体・遺伝子異常、退行性病変・進行性病変)について、それぞれの疾患の病理学的特徴を説明できる ③後半の各論で講義する以下の各器官・臓器(消化管、肝・胆・膵、呼吸器、循環器、血液、中枢神経、運動器、女性生殖器・乳腺、内分泌、腎泌尿器・男性生殖器)における代表的疾患について、病因、病理学的特徴、身体機能への影響、予後などを説明できる	2																◎	◎	◎	
	9136	精神・心理とリハビリテーション	理学療法対象者が気分障害(抑うつ状態)、脳卒中後うつ病、不安障害などの症状、認知症、統合失調症など精神疾患に高い割合で罹患していること、これらの疾患が理学療法プログラムに大きな影響を及ぼしていることを、理学療法士は認識しなければならぬ。本講義は、精神症状や心理状態を正しく理解し、リハビリテーションにおいて適切な対応ができるようになることを学修目標とする。		1																◎	◎	◎	
	9141	公衆衛生学	学習を通じて、現代社会の中で賢く健康的に生活していくために、どのようなことを考えなければならないかを体得する。公衆衛生学の歴史、日本における医療の発展から始めて、人口構成などの厚生指標、生活環境、労働環境、衛生行政にかかわる諸問題を学修する。また結核などの感染症、放射線障害、各種の公害、薬害など有名な具体例から、将来、さまざまな新しい事態に遭遇した際の対処法を、自分で判断できるよう学修する。	人口問題や、環境問題などの学習を通じて、公衆衛生、疫学の諸問題を考える上で必要な基礎知識を学習する	2																◎	◎	◎	
	9143	リハビリテーション概論	リハビリテーションは歴史の変遷を経て今日の概念に至っている。現在のリハビリテーションは医療分野のみならず、保健・福祉などの分野まで拡大しており、リハビリテーション専門職として、「リハビリテーションの理念と全体的概要」を正しく理解することが重要である。リハビリテーションの歴史の変遷、基本的概念、障害評価法の基礎、リハビリテーション関連職種、チーム医療と他職種との連携、リハビリテーションの基本的進め方、地域保健と福祉など、リハビリテーションに関係する基本的概念を習得する。	①リハビリテーションの歴史の変遷と基本的概念について学習 ②障害評価法の基礎的理解 ③リハビリテーション関連職種やチーム医療、他職種との連携についての学習 ④リハビリテーションの基本的進め方などの学習 ⑤現在の医療体制や代表的な一部疾患の基礎的知識などの獲得	2																◎	◎	◎	
	9200	医療統計学Ⅰ	統計学はバラツキを伴う情報を客観的に分析し評価する学問である。その統計学には「情報の基本構造を明らかにする機能」(記述統計学分野)と「少数の情報から全体を推し量る機能」(推測統計学分野)がある。これら二大機能について理解するとともに、身近なデータを用いて各種の統計処理を学修する。	①統計データを適切な表やグラフで表すことができる ②データ集団の特性を表す平均やメジアン等の代表値を求めることができる ③データのバラツキ度を表す標準偏差や四分位偏差等を求めることができる ④2変量データの関係を調べるための分割表や散布図の作成および相関係数等を求めることができる ⑤確率論を用いて簡単な確率の計算を行うことができる ⑥統計上最も重要な連続分布の正規分布や正規分布表等について説明できる ⑦確率95%で母平均の信頼区間推定ができる	2																		◎	
	9202	医療統計学Ⅱ	理学療法などリハビリテーションをはじめとする医療現場において、治療成績の評価とその解析は必須である。こうした治療成績の分析評価は客観的な指標が必要であり、それらを導き出すために統計的な手法が有効な手段となっている。そこで、医療現場でのデータ収集方法や得られたデータの分析方法とその評価などについて、実践例を通して習得する。	①統計学的仮説検定の流れが説明できる ②パラメトリックとノンパラメトリック検定の違いを説明できる ③対応がある場合の2群間のデータに差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ④対応がない場合の2群間のデータに差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ⑤多群のデータ間で差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ⑥分割表の検定を行うことができる ⑦パソコン統計処理ソフトウェアを利用して統計データの解析処理を行うことができる	2																		◎	
9044	感染予防	感染の予防と管理について必要な基礎的知識として、まず病原微生物により感染が起こる機序とヒトの感染防御機構について学ぶ。特に感染の経路について知ることは、感染予防の面からみて重要である。また医療関連施設や福祉施設における感染予防対策についての基本として、感染者への接し方と対処法、感染原因物質により汚染が疑われる器具の取り扱い、医療用補助器具の消毒、リネン類の扱い、病室や居室の清掃の必要性などについて具体的に学ぶ。	①病原体の種類、感染経路、ヒトの免疫機構について理解する ②医療現場で用いられる滅菌法、消毒剤などを適切に選ぶことができる ③標準予防策を実践できる ④予防接種について知識を持つ ⑤感染予防法の概要を知る	1																		◎		
9021	地域援助活動論	誰もが住み慣れた地域で安心して生活をしていくために、2025年を目途に地域包括ケアシステムが構築される。医療的問題を抱えた多くの障害者・高齢者が医療・介護・福祉の支援を受けながら在宅生活を送ることになる。今後、医療界も地域での活動の場が広まることから、医療職が地域で活躍するための意味と具体的技術、ならびに地域福祉活動の組織・専門職についての理解をもとに、コミュニティ・ワーカーの基本的態度と資質を修得する。	地域活動を理学療法の対象として認識し、社会との関連で健康問題を理解する	2																		◎		

専門基礎分野

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

専攻	科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数	開講時期(●)								専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
						1年		2年		3年		4年		倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
						必修	選択自由	春	秋	春	秋	春	秋												
理学療法管理学 理学療法評価学 理学療法基礎治療学	9046	安全管理論	理学療法士の職域は拡大し、職場に応じた安全対策について理解していることが必要である。そこで医療機関に限らず、施設、地域などさまざまな場面で患者安全について学ぶ。また、安全文化を形成するための組織、施設、および実践活動への理解を深める。その上で危機状態の回避、有害事象への対応、システムの変更などの基本的な方策を学修する。	①患者安全とは何かを理解する ②理学療法業務における事故防止について理解する ③医療機関での安全対策について理解する ④生活の場での安全対策について理解する ⑤組織としての安全対策について理解する	1																			◎	
	920F	理学療法教育管理学	医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法部門を含めた施設の組織、部門間の連携、診療報酬算定、人事労務管理などを含め、施設、病棟などの管理運営について学ぶ。また、人材育成のための社会人基礎力の形成、学術活動への参加、各種資格の取得、職業倫理の理解、臨床実習指導方法などについて学修する。	①医療人材育成のための基礎力の形成について説明できる ②卒前・卒後の理学療法教育について説明できる ③診療参加型臨床実習について説明できる ④医療保険制度、介護保険制度を理解し、理学療法部門を含めた組織の管理運営について説明できる	1																			◎	
	9213	理学療法評価学	理学療法における評価の目的、対象、方法、記録、解釈までの一連の流れを学ぶ。そのために、問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価を修得する。また、評価に必要な情報の収集、評価結果の記録方法、問題点の抽出から、理学療法プログラムまでを結びつける手法を理解する。	①理学療法における評価の意義・目的を挙げることができる ②形態測定の方法を挙げることができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法の各項目について基本軸、移動軸、参考可動域を挙げることができる ④感覚検査、反射検査の意義、目的を挙げることができる ⑤ADL、QOLの意義、目的を挙げることができる	2				●										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	9214	理学療法評価学実習	理学療法評価学で学習した基本的な評価技術について実習を行い、その技術を高めることを目的とする。問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価までを実際に行うことで、基本的な運動機能を理解するために必要な技術を修得する。	①全体像把握のための問診ができる ②四肢の形態計測ができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法に基づき測定ができる ④徒手筋力検査法(MMT)による測定ができる	1				●										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	9217	神経理学療法評価学	神経理学療法領域の評価を学習し、評価の目的と具体的方法を理解する。脳血管障害後片麻痺によって生じる意識、運動、感覚、高次脳機能の障害や、パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷、パーキンソン病、変性疾患など疾患別に機能障害、日常生活動作を含んだ能力障害の評価方法と医用画像の評価を学ぶ。	①脳卒中片麻痺患者の臨床像について国際生活機能分類(ICF)による生活機能と障害モデル例を作成することができる ②脳血管障害後片麻痺障害の意識、運動、感覚、高次脳機能の障害についての代表的な評価法の概要、及び包括的評価法を挙げることができる ③FIMとSIASIについて評価項目の理解と採点方法がわかる ④パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷など疾患別に機能障害、日常生活動作を含んだ能力障害の評価方法を挙げることができる	1								○	○	○				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	9218	神経理学療法評価学実習	反射反応、意識、高次脳機能、ADL、動作分析など神経理学療法領域で共通して用いられるの検査手法を実習し、障害像を把握するための具体的評価方法を体得する。併せて、疾患ごとに行われる個別の検査、評価方法を身につけ障害の重症度と問題点を把握するための方法を学修する。	①腱反射、感覚、意識、高次脳機能、脳神経の検査測定ができる ②FIMとSIASIについて評価の実施と評定ができる ③フロンストローム評価の実施と評定ができる ④失調症状の評価の実施ができる	1										○	○	○				◎	◎	◎	◎	◎
	921A	運動器理学療法評価学	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そこで、各運動器疾患における病態の特徴と評価方法、医用画像の評価について学ぶと共に、各病態に対する理学療法の理解を深める。	①運動器の構造を説明できる ②運動器の機能を説明できる ③運動器疾患における病態の特徴を説明できる ④運動器疾患における病態の評価方法を説明できる	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎
	921B	運動器理学療法評価学実習	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そのため、運動器疾患を理解し、適切に評価することが重要である。そこで、運動器疾患における病態の特徴と評価方法について実習を通して理解を深める。	①運動器疾患における病態の特徴を説明できる ②運動器疾患における病態の評価方法を説明できる ③関節機能を評価できる ④骨格筋機能を評価できる ⑤神経機能を評価できる	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎
	921C	内科系理学療法評価学	内部(呼吸器系、循環器系、代謝系)障害の病態を適切に理解し、各病態に起因する身体運動障害の要因を明らかにするための検査測定法と医用画像の評価、理学療法評価方法を学修する。また、内部障害により生じる身体運動機能への影響についての基礎知識を修得する。	①フィジカルサインを正確にとらえることができる ②運動中のフィジカルサインを正確に理解することができる ③運動負荷により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解できる ⑤無酸素性代謝閾値について理解できる ⑥肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解できる	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎
	921D	内科系理学療法評価学実習	内部(呼吸器系、循環器系、代謝系)障害の各病態に起因する身体運動障害を正確に評価し各病態を把握するために必要な検査、測定および評価法を実習を通して学修する。また、呼吸機能、循環機能、代謝機能検査の目的や方法を習得し、得られた情報を解析し、内部障害症例に対して適切な検査項目を選択する能力を修得する。	①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる ②運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる ③運動負荷により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解し、計測できる	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎
	921E	動作分析学	各疾患が示す正常動作からの逸脱(障害像)をどのように把握するのか、日常生活における各動作を、観察・解析・分析して、必要とされる支援・介入の方法を導き出すための手法を学ぶ。そのため、各疾患における特徴的な動作パターンを理解し、動作分析結果に基づく臨床推論過程を学修する。	①正常動作を理解する ②正常動作からの逸脱を理解する ③動作観察の手法を理解する ④動作の観察結果を分析する手法を理解する ⑤分析結果から理学療法介入手段を導き出す手順を理解する	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎
	922A	理学療法基礎治療学 I	理学療法の主たる治療手段には運動療法と物理療法がある。そして、運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の定義、種類や生体反応などの総論について学修する。	①運動療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる ②運動による各種生体反応(筋骨格系、神経系、呼吸器系、循環器系、代謝系)について説明できる ③物理療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる ④物理的エネルギーによる生体反応について説明できる	1															◎	◎	◎	◎	◎	◎

科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数		開講時期(●)								専攻の学習成果				その他の学習成果				
				単位		1年	2年	3年	4年	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力	
				必修	選択	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋							
922B	理学療法基礎治療学Ⅱ	日常生活活動の概念、範囲、意義を学修する。特に、国際生活機能分類(ICF)との関係の中での日常生活の評価や日常生活の質を改善することの意味を理解する。また、日常生活を支援するための機器や補具について、生活の中でどのように活用されるかについて、一般的な義肢装具、車椅子、生活補助具の種類、構造、適応を学修する。	①日常生活を構成する諸活動を整理し、ICFでの位置づけを説明できる ②日常生活活動の評価方法(FIMとBI)を学習し、実際に評価できる ③疾患による障害像の相違を理解し、障害像に応じた教科書的ADL援助方法を説明できる ④自具、車椅子、義肢装具を導入することで可能となる生活活動を理解し、教科書的援助方法を説明できる ⑤家庭・環境調整による介入方法を理解し、教科書的援助方法を提示できる ⑥自具、杖、車椅子、義肢装具を正しく使うことができる	1			●								○							
922C	理学療法基礎治療学実習Ⅰ	理学療法の主たる治療手段である運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の各手法や生体反応について理解し、その実施方法を学修する。そして、運動療法と物理療法による生体反応の理解を深める。	①基本的な運動療法手法を説明できる ②基本的な運動療法手法を実施できる ③物理療法機器を用いた治療方法を説明できる ④物理療法機器を用いた治療方法を実施できる	1			●							○				○				
922D	理学療法基礎治療学実習Ⅱ	障がいにより日常生活活動がどのように変化するかを測定するための方法を学修する。障がいの種類や程度により必要となる援助の具体的な方法の共通項目について体験学習する。また、補具については、装着・体験を通して、その機能や義肢装具装着者の日常生活での問題点について理解を深める。	①日常生活を構成する諸活動を整理し、評価することができる ②疾患や年齢により変化する日常生活活動の制限について理解する ③疾患や年齢による日常生活活動の制限を測定できる ④起座移動動作について教科書的な介入ができる ⑤自具、杖、車椅子等代表的な補具の種類と適応について理解する	1			●							○					○			
9227	理学療法技術論	理学療法を行うためには刺激や運動に対する生体の反応を理解する必要がある。そのための理学療法技術の理論的背景にある生理学的および解剖学的な裏づけを、基礎的な部分に焦点を当て学修する。また、大腿骨頭部骨折や脳卒中片麻痺などの代表的疾患の症例検討を通して、評価から理学療法介入までの手順とその内容をどのように記録するかについて学修する。	①筋力増強の方法を説明できる ②関節可動域改善の方法を説明できる ③筋緊張異常に対する理学療法の説明ができる ④疼痛に対する理学療法の説明ができる	2											○				○			
9229	理学療法技術論実習	理学療法技術論で学んだ各種の理学療法技術を適切に実施できるように実習形式で学修する。特に理学療法士に大切な人体に接するタッチの感覚、各種の刺激の入力の方法、筋力増強、関節可動域訓練などの基本的技術やそれらを実施するための基礎的能力を獲得する。また同学期に実施される理学療法臨床検査測定実習での経験を題材として、その知識・技術の向上と、症例に対応した検査測定の実施を学修する。	①各疾患に対する理学療法評価が選択できる ②典型的な筋骨格系疾患の理学療法が説明できる ③典型的な中枢神経疾患の理学療法が説明できる ④各疾患に対し適切な目標を設定できる ⑤各疾患に対応した適切な理学療法プログラムが作成できる	1												○				○		
9242	神経理学療法学	中枢神経系疾患に対する理学療法の基本的知識を概観し、評価から治療までの流れについて理解する。特に脳血管障害、パーキンソン病、運動失調などの各疾患に対する基本的な理学療法を学修する。障害を持ちながらの日常生活での指導管理に関する知識を深めるとともに、一方で障害予防としての生活指導を見据えた理学療法の展開ができるよう学修する。	①中枢神経系疾患の障害像を理解し、説明することができる ②各疾患の障害像にしたがって評価項目をあげることができる ③評価結果にもとづいて教科書に例示してある治療法を選択できる ④障害像に見合った教科書的ADL介入方法を例示できる	2							●				○					○		
9243	神経理学療法学実習	中枢神経系疾患の理学療法の基本的知識技術について、評価、検査、測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案などについて実習を通して学修する。また、様々な中枢神経系疾患に対する運動療法介入について実技の習得を目指すと共に、代表的疾患を症例として検討を深め、臨床能力の獲得を目指す。	①中枢神経系疾患の障害像を身体を使って表現し、説明できる ②各疾患の障害像にしたがって抽出した評価を実施することができる ③選択した治療法を実施できる ④障害像に見合った教科書的ADL介入方法を展示、例示できる	1											○					○		
9246	運動器理学療法学	運動器理学療法学では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法を修得する。そのために、関節の機能解剖学、病態運動学を学び、各種疾患の障害に対する知識を深め、状態に応じた評価・治療、リスク管理の実際を学ぶ。また、情報収集、画像診断、電気診断のポイントを理解し、各種疾患に対し最善の理学療法を行えるよう、各種運動療法技術や義肢装具、物理療法の効果と疾患への適応を学修する。	①各関節の機能解剖を説明できる ②各疾患の病態を説明できる ③各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明ができる ④評価結果から障害構造の把握を行い、適切な目標設定を作成できる ⑤プログラムの立案について説明できる	2											○					○		
9247	運動器理学療法学実習	運動器理学療法学実習では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法技術を、実習を通して修得する。そのために、関節可動域改善のための関節包内運動やストレッチ、疼痛抑制や筋力・持久力増強のための理学療法技術を実習する。また、義肢装具や物理療法効果の検証を行い、筋骨格系疾患に対する理学療法プランを学修する。	①筋、骨、関節の触診を適切に行うことができる ②義肢装具の適応について説明できる ③運動器症状を改善するための物理療法を実施できる ④運動器症状を改善するための運動療法を実施できる ⑤情報収集から評価及び理学療法の実施までを記録できる	1											○					○		
924A	内科系理学療法学	内科領域の疾患による病態像や障害像を理解した上で理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を学修する。講義は、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、腎疾患のほか悪性新生物の内科系治療により起因する身体運動障害を学び各病態のリスク管理や理学療法を学修する。	①糖尿病および肥満症の病態を理解し、把握した上で理学療法を選択できる ②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法を選択できる ⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法を選択できる ⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる	2											○					○		

専門分野

理学療法治療学

科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数		開講時期(●)								専攻の学習成果 (●=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目。○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目。△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)												
				必修	選択	1年		2年		3年		4年		倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力	
						春	秋	春	秋	春	秋	春	秋													
理学療法治療学	924B	内科系理学療法実習	①糖尿病および肥満症の病態を理解し、把握した上で理学療法を実施できる ②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施することができる ③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施できる ⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病態に合わせた理学療法を実施できる ⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症を理解し、安全に理学療法を実施できる	1																						
	9255	スポーツ理学療法学	①スポーツ理学療法学の考え方を説明することができる ②代表的なスポーツ外傷の発生メカニズムや評価方法を説明することができる ③アスレティックリハビリテーションの流れを説明することができる ④アスレティックリハビリテーションで用いる具体的手法について説明することができる ⑤テーピングの理論を説明し、適切に実施することができる	1																						
	9252	電気診断学	①理学療法における電気診断の理論を理解する ②表面筋電図の検査方法を理解する ③検査結果から診断のプロセスを学ぶ ④代表的疾患の診断とその応用について理解する	1																						
	9256	リハビリテーション関連機器	①リハビリテーションにおける福祉用具等の開発の歴史的背景等について要点の説明ができる ②福祉用具の役割と重要性について要点の説明ができる ③国際生活機能分類 (ICF)における福祉用具開発の意義とその役割について要点の説明ができる ④国際規格と国内規格の関係を説明できる ⑤介護保険制度における福祉用具の位置付けやその取り扱い方法等について要点の説明ができる ⑥補装具・共用品等の種類やその役割等について要点の説明ができる ⑦車いすや義肢装具等のリハビリ関連機器の種類とその役割等について要点の説明ができる	1																						
	9253	発達障害理学療法学	①「療育」の概念と障害児・者の各ライフステージについてどのような支援が必要になるかを説明できる ②障害児・者の二次障害についての概要とその予防について説明できる ③代表的な疾患の病態を説明できる ④各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明できる ⑤評価結果から適切な目標設定を作成できる	2																						
9254	発達障害理学療法実習	①各疾患の病態を説明できる ②各疾患に則した評価項目が立案できる ③立案した評価を適切に行うことができる ④評価結果を考察し、問題点を抽出できる ⑤治療プログラムの立案ができる	1																							
地域理学療法学	9262	予防理学療法学	①超高齢化社会における介護予防が必要な理由を理解する ②介護予防の基本的な考え方を説明できる ③高齢者や障がい者の自立支援について理解する ④運動障害者の再発予防における理学療法士の役割を説明できる ⑤健康増進やヘルスプロモーションの考えを理解する	2																						
	926B	多職種連携論	①高齢者や障がい者がもつ多様なニーズについて理解する ②保健医療福祉サービスに関係する各職種の役割・機能を理解し、専門性を活かしながら連携し協働する方法について考える。また、演習を通してチームアプローチの実践について学修する。	1																						
	926A	アダプテッドスポーツ	①アダプテッドスポーツの概要について理解する ②アダプテッドスポーツの歴史を理解する ③アダプテッドスポーツの種目と競技の実施状況を理解する ④世界におけるアダプテッドスポーツの活動状況を理解する ⑤高齢者や障がいのある人にとってのスポーツの効果を理解する	2																						
臨床実習	9278	理学療法臨床見学実習	①理学療法士の役割と責任について理解する ②理学療法業務の流れと役割を理解する ③理学療法対象者を理解する ④臨床実習を通して、学内での学習意欲を高める ⑤理学療法士としての基本的態度・資質を養う	1																						

専門分野

